

6. 日常生活圏域ニーズ調査について

(1) 調査の概要

①調査の目的

計画策定を進めるにあたり、高齢者の身体状況について、日常生活圏域別の課題を把握し、地域包括ケアを推進するための基礎資料とするために、日常生活圏域ニーズ調査を実施しました。

調査結果は高齢者個人に通知し、健康状態のチェックにも活用しました。

②調査対象と配布件数

市内在住の 65 歳以上の高齢者 配布件数は 1,203 件

③調査の方法

本人または家族等による自記入式（記入が困難な場合は民生委員・児童委員等による聞き取り）

配布方法① 民生委員児童委員の訪問による直接配布・回収

配布方法② 地域相談センター職員の訪問による直接配布・回収

④調査期間

平成 22 年 12 月 25 日～平成 23 年 2 月 25 日

⑤回収状況

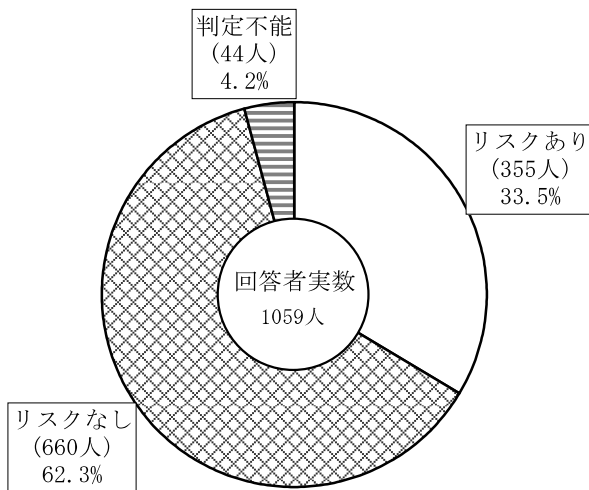
	配布数	回収数	有効回答数	回収率	有効回答率
第 1 民児協区	327	286	284	87.5%	86.9%
第 2 民児協区	451	416	403	92.2%	89.4%
第 3 民児協区	425	383	372	90.1%	87.5%
合 計	1,203	1,085	1,059	90.2%	88.0%

(2) 全体の状況

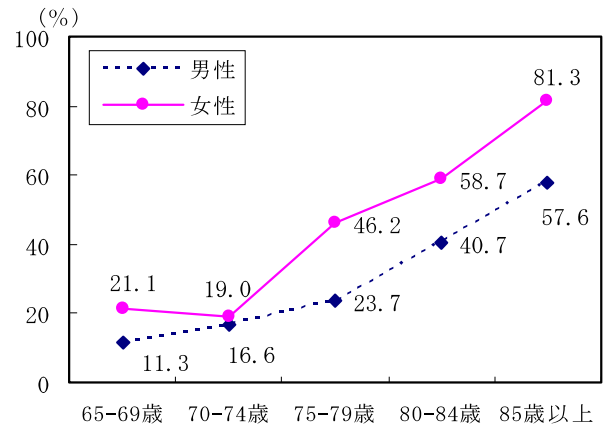
①運動器

○リスク者は男性よりも女性の方が、また年齢が上がるほど高くなっています。

運動器のリスク者の割合



性別・年齢別にみる運動器のリスク者割合



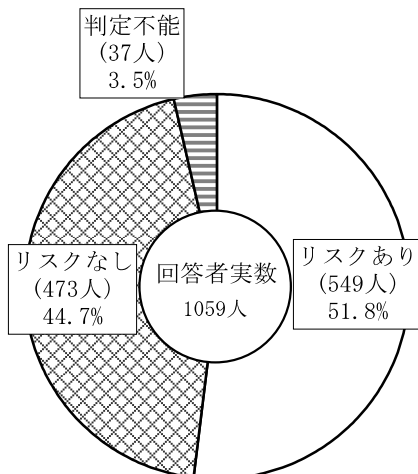
②認知

○リスク者は全体の51.8%（549人）です。

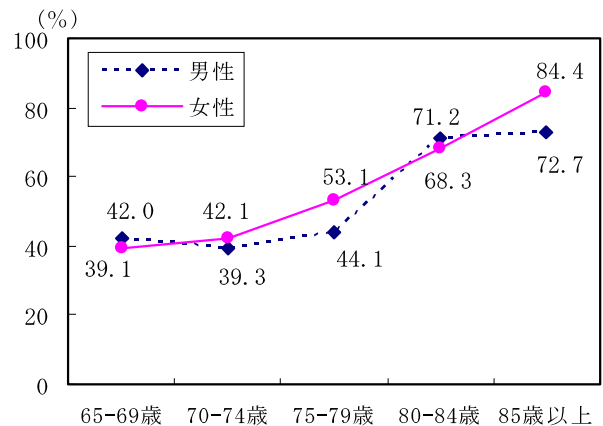
○男女差は余りないですが、75歳、85歳以上は女性が10ポイント程度高くなります。

○年齢が上がるとリスク割合が高くなりますが、85歳以上では男女差が顕著です。

認知のリスク者の割合



性別・年齢別にみる認知のリスク者割合

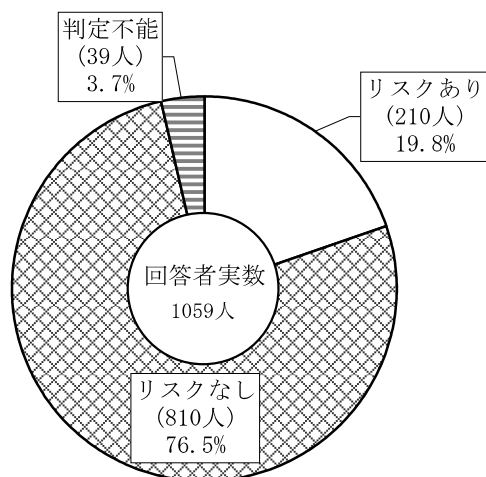


③虚弱

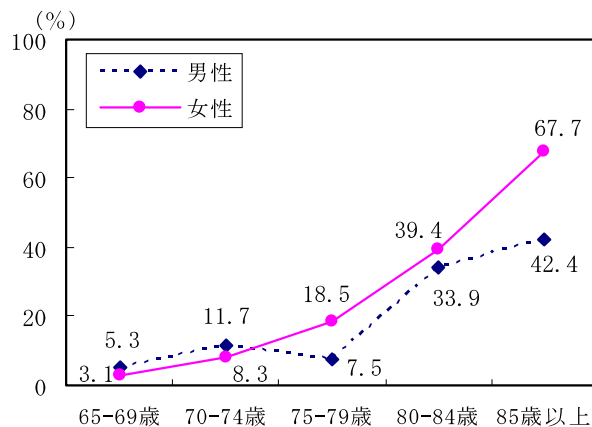
○虚弱のリスク者は全体の 19.8%（210 人）です。

○80-84 歳以降で急激にリスク者割合が上がっています。特に女性は急上昇します。

虚弱のリスク者の割合



性別・年齢別にみる虚弱のリスク者割合



④疾病

ア) 高血圧

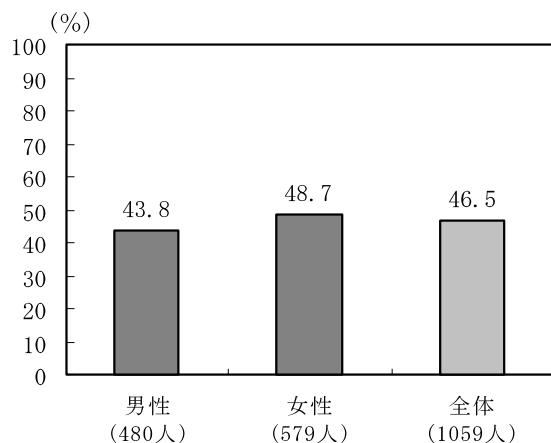
○有病率がもっとも高い病気は「高血圧」です。

○全体では若干女性の方が高くなります。

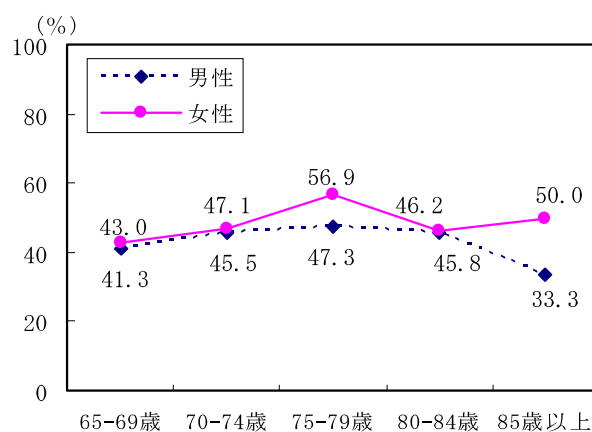
○男性は 85 歳以上でやや下がるものの概ね横ばいです。

○女性も同様ですが、75-79 歳が 56.9%でもっとも高くなります。

男女別高血圧の有病率



性別・年齢別にみる高血圧の割合

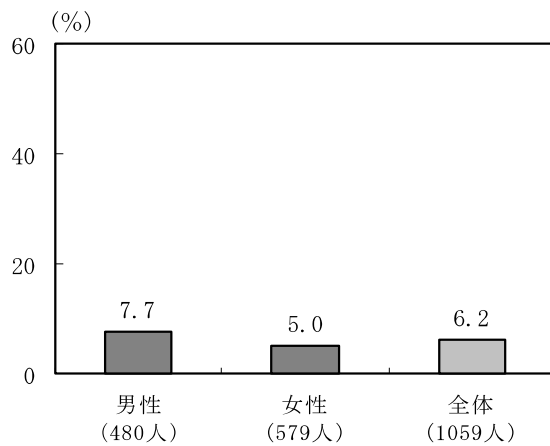


1) 脳卒中

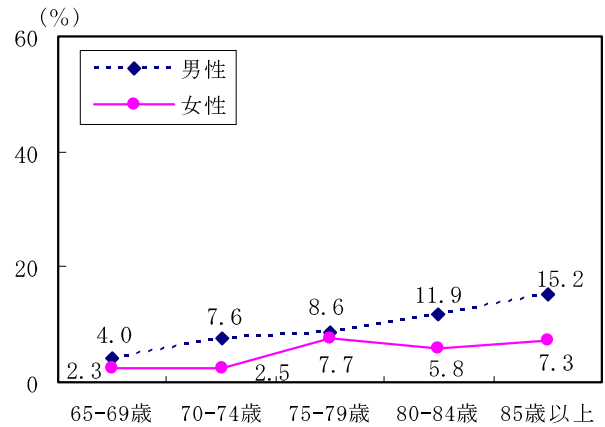
○有病率は男性が 7.7%、女性が 5.0%で若干男性の方が高くなります。

○年齢が上がるとともに有病率も上昇し、男性の 85 歳以上では 15.2%になります。

男女別脳卒中の有病率



性別・年齢別にみる高血圧の割合



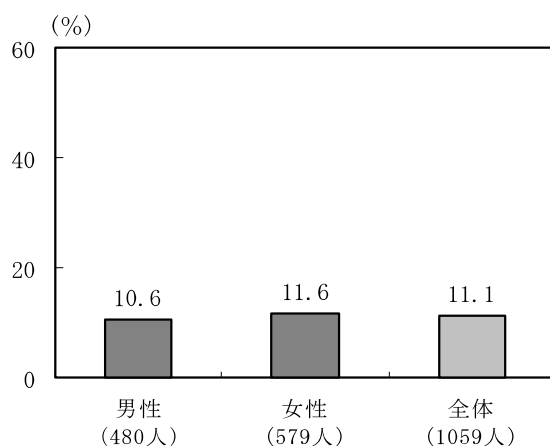
2) 心臓病

○有病率の男女の差はさほど見られません。

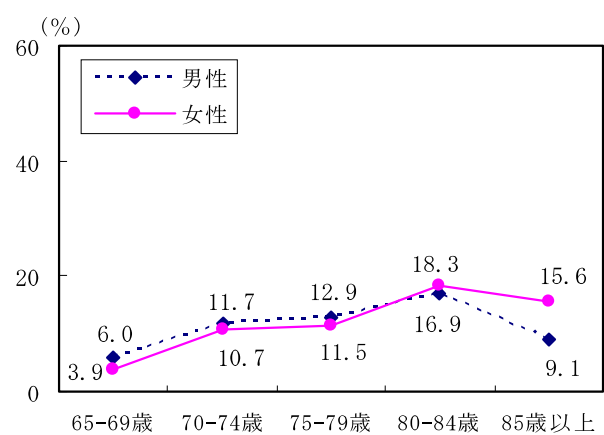
○概ね年齢が上がるとともに有病率も上昇しています。

○75-79 歳までは男性、それ以降は女性の方がわずかに上回っています。

男女別心臓病の有病率



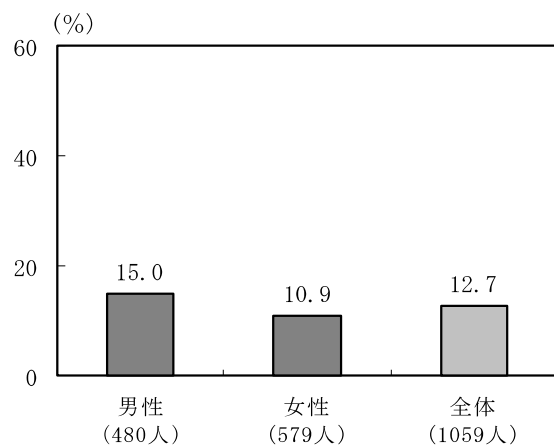
性別・年齢別にみる心臓病の割合



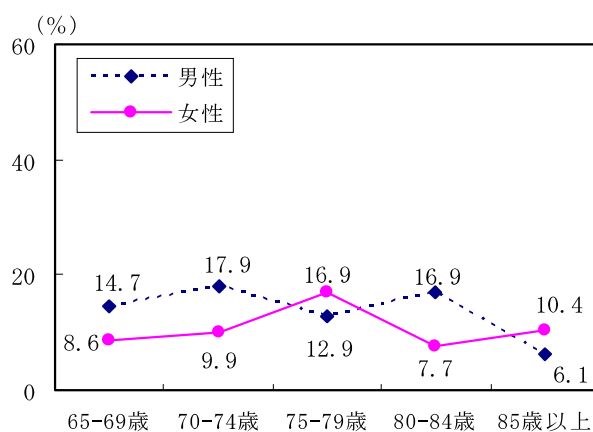
I) 糖尿病

○有病率は男性が高く、年齢別でも75～79歳、85歳以上を除き、男性の方が高くなっています。

男女別糖尿病の有病率



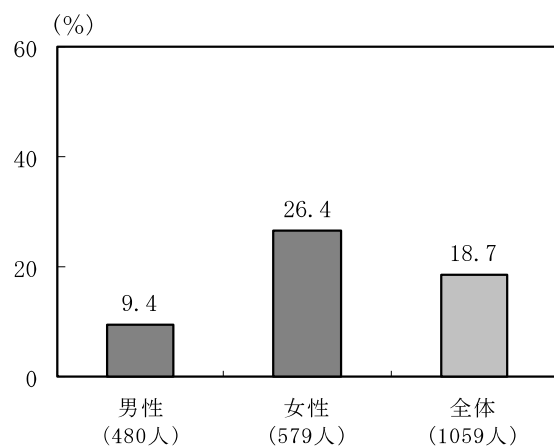
性別・年齢別にみる糖尿病の割合



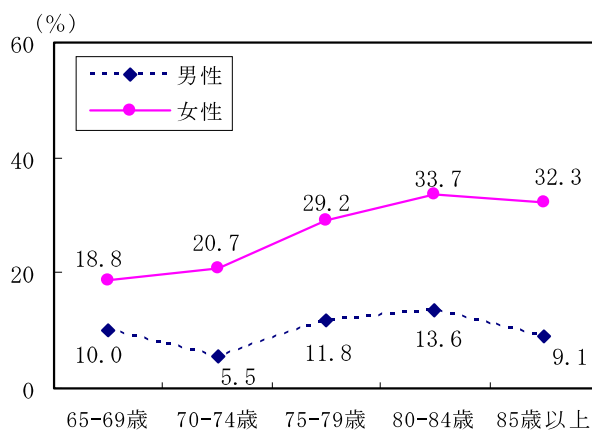
Ⅱ) 筋骨格系疾患

○関節リウマチを含む「筋骨格系疾患」は圧倒的に女性に多くなります。
○年齢別に見ると、男性は概ね横ばい。女性は年齢が上がる则有病率も上昇します。

男女別筋骨格系疾患の有病率



性別・年齢別にみる筋骨格系疾患の割合



⑤要介護になった原因疾患

○全体では、「高齢による衰弱」がもっとも高く、「骨折・転倒」、「脳卒中」、「認知症」がこれに続いています。

○男性では「脳卒中」がもっとも多く約3割を占めています。

○女性では「骨折・転倒」「認知症」が比較的高くなっています。

要介護の原因疾患（それぞれ比率の高い順）					
全体	%	男性	%	女性	%
高齢による衰弱	25.0	脳卒中	28.6	高齢による衰弱	28.3
骨折・転倒	19.5	高齢による衰弱	18.2	骨折・転倒	24.5
脳卒中	18.2	視覚・聴覚障害	15.6	認知症	18.9
認知症	16.5	糖尿病	13.0	関節の病気	16.4
関節の病気	13.1	認知症	11.7	脳卒中	13.2
視覚・聴覚障害	12.7	心臓病	9.1	視覚・聴覚障害	11.3
糖尿病	9.7	骨折・転倒	9.1	心臓病	8.8
心臓病	8.9	関節の病気	6.5	糖尿病	8.2
パーキンソン病	3.8	呼吸器の病気	5.2	脊椎損傷	4.4
脊椎損傷	3.8	パーキンソン病	3.9	パーキンソン病	3.8
呼吸器の病気	3.4	がん	2.6	呼吸器の病気	2.5
がん	1.3	脊椎損傷	2.6	がん	0.6
その他	11.9	その他	11.7	その他	11.9
不明	1.7	不明	1.3	不明	1.9
無回答	14	無回答	14.3	無回答	13.8

(3) 日常生活圏域別の状況

① 高齢者の要介護状態等

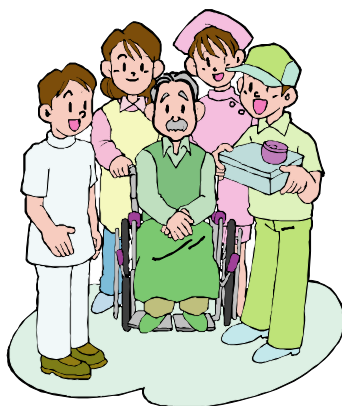
○市では、高齢者に占める要介護者の割合が、全国に比べて若干高くなります。

○二次予防対象者は糸満圏域、西崎圏域で若干高くなります。

○介護保険の要支援者は糸満、西崎圏域で、要介護者は兼城、高嶺圏域でやや高くなっています。

	全 国	糸満市
二次予防対象者	30.1%	26.9%
男性	—	23.1%
女性	—	30.1%
要支援者	6.8%	4.4%
要介護者	7.5%	12.6%

	糸満圏域	西崎圏域	兼城圏域	高嶺圏域	三和圏域
二次予防対象者	30.0%	30.5%	23.1%	25.5%	25.8%
要支援者	7.2%	5.8%	2.8%	2.8%	3.4%
要介護者	12.7%	8.9%	15.5%	16.6%	9.7%



②要介護の原因疾患

○要介護の原因疾患について見ると、市全体では骨折・転倒、脳卒中、認知症の順で多くなっています。

○糸満圏域では骨折・転倒がもっとも高く 30.5%を占めています。また西崎圏域と高嶺圏域では脳卒中（西崎圏域はその他骨折・転倒も同率1位）、兼城圏域と三和圏域では認知症がもっとも高くなっています。

【介護が必要になった原因】

	全 国	糸満市
1位	なし	骨折・転倒 19.5%
2位		脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 18.2%
3位		認知症(アルツハイマー病等) 16.5%

	糸満圏域	西崎圏域	兼城圏域	高嶺圏域	三和圏域
1位	骨折・転倒 30.5%	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) 16.7%	認知症 (アルツハイマー病等) 25.5%	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) 23.1%	認知症 (アルツハイマー病等) 19.5%
2位	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) 22.0%	骨折・転倒 16.7%	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) 18.2%	間接の病気 (リウマチ等) 15.4%	間接の病気 (リウマチ等) 17.1%
3位	認知症 (アルツハイマー病等) 15.3%	心臓病 14.3% 間接の病気 (リウマチ等) 14.3% 視覚・聴覚障害 14.3%	骨折・転倒 18.2%	視覚・聴覚障害 12.8% 骨折・転倒 12.8%	骨折・転倒 14.6%

③地域活動

○地域活動では、全国に比べて祭り・行事への参加は若干高いですが、老人クラブへの参加率は全国より低くなっています。

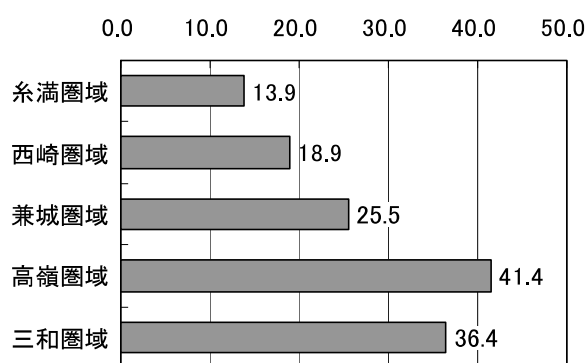
○祭り・行事、老人クラブへの参加率が比較的高いのは、高嶺、三和圏域です。

○地域活動へは参加していないという回答は、糸満、西崎圏域が高く、6割近い比率となっています。

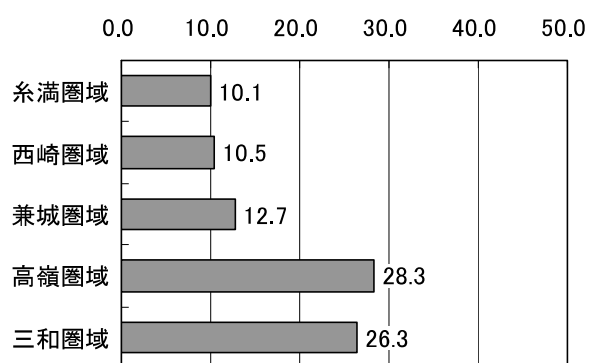
		全 国	糸満市
地域活動	祭り・行事	23.6%	26.3%
	老人クラブ	26.2%	16.9%
	参加していない	なし	47.7%

		糸満圏域	西崎圏域	兼城圏域	高嶺圏域	三和圏域
地域活動	祭り・行事	13.9%	18.9%	25.5%	41.4%	36.4%
	老人クラブ	10.1%	10.5%	12.7%	28.3%	26.3%
	参加していない	59.9%	54.7%	47.8%	38.6%	35.2%

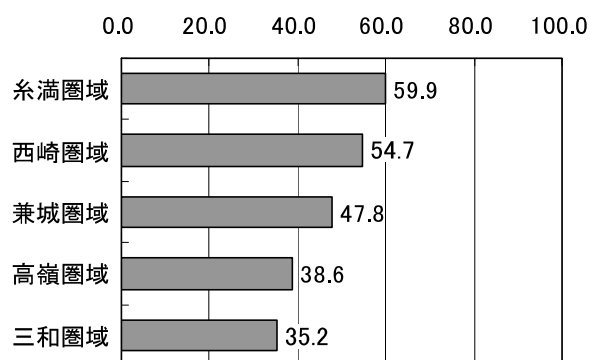
【祭り・行事】



【老人クラブ】



【参加していない】

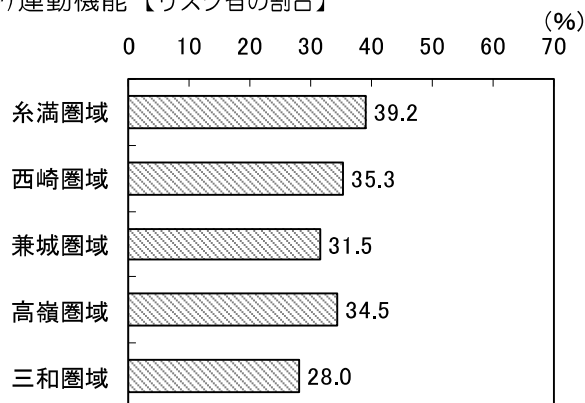


④圏域別の身体機能リスクの状況

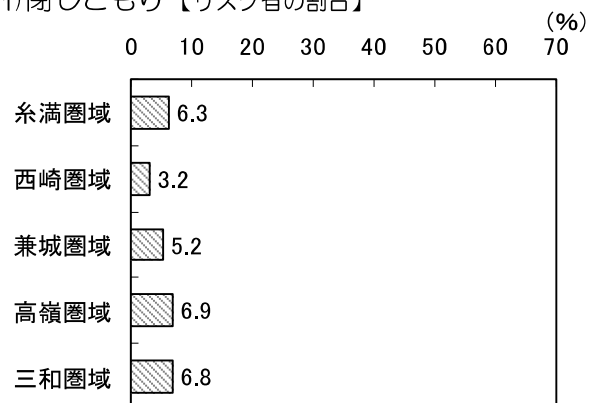
○市内の5圏域で、それぞれ身体状況に違いが現れています。

○三和圏域は運動機能のリスク者は少なく、認知症のおそれのある人の割合が高くなります。

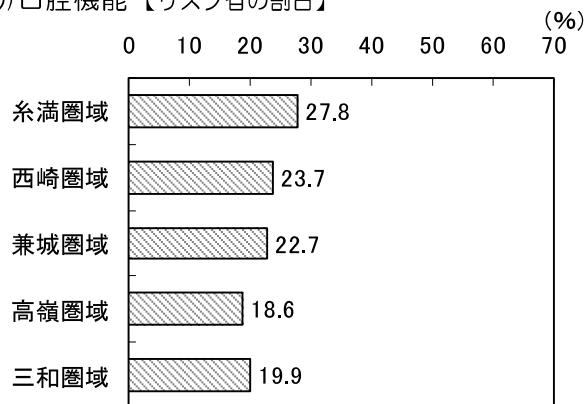
ア) 運動機能【リスク者の割合】



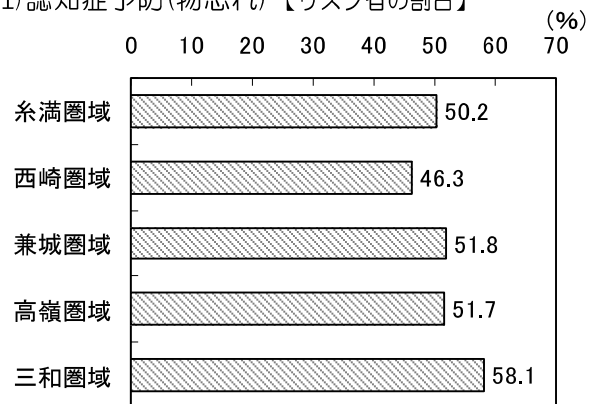
イ) 閉じこもり【リスク者の割合】



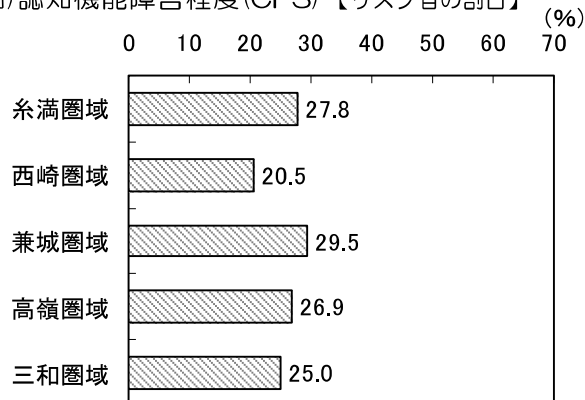
ウ) 口腔機能【リスク者の割合】



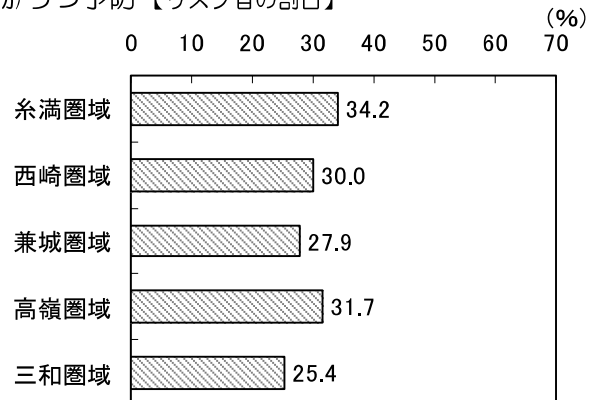
エ) 認知症予防(物忘れ)【リスク者の割合】



カ) 認知機能障害程度(CPS)【リスク者の割合】



ク) うつ予防【リスク者の割合】



⑤日常生活圏域別集計のまとめ

- 全国値と糸満市との差は余りありません。
- 圏域別の状況では、糸満、西崎の2圏域と、兼城、高嶺、三和の3圏域の大きく2つに分かれているといえます。この都市的な圏域と農村的な圏域では高齢者の状態像、生活様式が異なっていることが明らかで、福祉的支援や地域福祉の進め方等もそれぞれの特徴を踏まえて取り組む必要があります。
- また、兼城、高嶺、三和の農村的な圏域の中でもタイプが少し異なっています。三和圏域は足腰の強い高齢者が多いのに対して、兼城、高嶺では都市的家庭、農村的家庭が混在しているように、都市、農村両方の要因が含まれているようです。

(4)世帯構成別の状況

①全体的な状況

- 世帯構成について男女別に見ると「一人暮らし」は女性の方で、また「配偶者と二人暮らし」は男性の方の比率が高くなっています。
- また、「配偶者以外と二人暮らし」（同居相手は子や孫が大半）では、女性の占める割合が8割を超え圧倒的に多くなります。
- 年齢別では、「配偶者と二人暮らし」は前期高齢者で多く、「配偶者以外と二人暮らし」は後期高齢者で多くなっています。

	一人暮らし	配偶者と 二人暮らし	配偶者以外と 二人暮らし	3人以上同居
全 体	13.7%	21.9%	9.9%	49.0%
男 性	37.2%	61.2%	13.3%	46.8%
女 性	62.8%	38.8%	86.7%	53.2%
前期高齢者の割合	49.0%	58.6%	32.4%	54.8%
後期高齢者の割合	51.0%	41.4%	67.6%	45.2%

②外出の状況

○「配偶者以外と二人暮らし」では、週1回の外出や買い物の頻度が低めです。

○散歩の頻度は「一人暮らし」で、やや低くなります。

	一人暮らし	配偶者と 二人暮らし	配偶者以外と 二人暮らし	3人以上同居	市全体
週1回の外出者	82.8%	91.4%	77.1%	81.7%	81.7%
買い物の頻度 (ほぼ毎日+4, 5回)	24.9%	29.3%	23.8%	25.4%	25.4%
散歩の頻度 (ほぼ毎日+4, 5回)	27.6%	39.2%	33.4%	33.3%	33.2%

③地域活動への参加

○「一人暮らし」では地域活動への参加度が若干低くなっています。

○地域活動に参加していないという回答は、「配偶者以外と二人暮らし」で6割を超えもっとも高くなります。また、「一人暮らし」でも6割弱で高くなっています。

	一人暮らし	配偶者と 二人暮らし	配偶者以外と 二人暮らし	3人以上同居	市全体
祭り・行事	20.7%	33.6%	16.2%	27.7%	26.3%
老人クラブ	13.8%	18.1%	17.1%	17.5%	16.9%
参加していない	57.2%	41.4%	61.9%	45.3%	47.7%

④運動機能、閉じこもり

○各リスクとも、「配偶者以外と二人暮らし」でリスク者の比率が最も高くなっています。

○また、「一人暮らし」でも運動機能、転倒でリスク者の比率が高めです。

	一人暮らし	配偶者と 二人暮らし	配偶者以外と 二人暮らし	3人以上同居	市全体
運動機能リスク者	39.3%	24.6%	49.5%	30.8%	33.5%
閉じこもりリスク者	11.7%	7.4%	21.9%	16.2%	15.4%
転倒リスク者	36.6%	24.1%	41.9%	27.4%	29.7%

⑤栄養、口腔機能

○栄養のリスク者では、世帯別での差異はあまり見られません。

○口腔機能のリスクでは、「一人暮らし」と「配偶者以外と二人暮らし」が若干高くなっています。

	一人暮らし	配偶者と二人暮らし	配偶者以外と二人暮らし	3人以上同居	市全体
栄養リスク者	2.1%	1.3%	1.0%	1.0%	1.4%
口腔機能リスク者	27.6%	19.4%	26.7%	20.4%	22.9%

⑥認知機能、うつ

○物忘れのリスク者では、「一人暮らし」がもっとも高くなります。

○うつのリスク者では、「配偶者以外と二人暮らし」が最も高く、「一人暮らし」がこれに次いで高くなります。

	一人暮らし	配偶者と二人暮らし	配偶者以外と二人暮らし	3人以上同居	市全体
物忘れリスク者	57.9%	42.2%	53.3%	52.4%	51.8%
うつリスク者	37.9%	25.9%	40.0%	25.8%	29.7%

⑦世帯構成別集計のまとめ

○世帯構成では、「一人暮らし」の見守りや支援が必要ですが、この結果からは「配偶者以外と二人暮らし」でリスク者の割合が高いことがわかります。生活改善や介護予防の指導などは「一人暮らし」とともに「配偶者以外と二人暮らし」の世帯も重視する必要があります。

○「配偶者以外と二人暮らし」は後期高齢者の女性で多くっており、同居者は「子」のケースが多くなります。

(5) 口腔機能について

①「義歯の使用」とリスク者の割合

	運動機能 リスク者	閉じこもり リスク者	物忘れ リスク者	うつ リスク者	虚弱 リスク者	二次予防 対象者
全体	33.5%	15.4%	51.8%	29.7%	19.8%	42.3%
義歯を使用している	35.9%	14.6%	55.5%	31.8%	24.3%	45.5%
義歯を使用していない	29.6%	20.0%	46.0%	24.9%	18.4%	37.8%
差	6.3	△5.4	9.5	6.9	5.9	7.7

	転倒 リスク者	IADL リスク者	知的能動性 リスク者	社会的役割 リスク者
全体	29.7%	29.0%	53.5%	35.8%
義歯を使用している	32.8%	31.7%	58.8%	48.6%
義歯を使用していない	24.4%	24.1%	44.9%	44.7%
差	8.4	7.6	13.9	3.9

②口腔機能の集計のまとめ

○義歯の使用状況別に見ると、閉じこもり以外の全ての項目で、「義歯を使用している」方は、リスク者の割合がやや高くなっています。

○義歯の噛み合わせでは、「噛み合わせが良くない」方はリスク者の割合が高く、全ての項目において、「噛み合わせがよい」方を10ポイント以上、上回っています。

○特に、うつ、虚弱、社会的役割、二次予防対象者で、「噛み合わせが良い」方より20ポイント以上、上回っています。

(2) 圏域ごとの課題について

以下は、今回のアンケートにより把握された課題です。アンケートの結果を基に、地域に足を運んでの実態把握を進め、圏域ごとの施策に繋げていくように図ります。

圏域名	行政区	課 題
糸満圏域	字糸満全域	後期高齢者が多い 二次予防の対象者が多い 転倒・骨折が原因で要介護となる人が多い 所得の低い人が多い（生活保護） 一人暮らしの高齢者が多い 運動機能のリスク者割合が高い 口腔機能のリスク者割合が高め うつのリスク者割合が高い 地域活動、行事に参加していない高齢者が多い
西崎圏域	西崎町、西川町、潮平、阿波根	二次予防の対象者が多い 運動機能のリスク者割合が高め （転倒の危険、不安を抱えている人が多い） 閉じこもりのリスク者割合が比較的低い 物忘れのリスク者割合が低め 地域活動、行事に参加していない高齢者が多い 願寿館の周知度が高い
兼城圏域	照屋、兼城、座波、賀数、北波平、武富	要介護の認定率が高い 認知症から要介護者となる人が多い 認知機能のリスク者割合が高め 願寿館の周知度が低い 地域相談センターの周知度が低い
高嶺圏域	豊原、与座、大里、国吉、真栄里、潮崎町	要介護の認定率が高い 脳卒中から要介護となる人が多い （転倒の危険、不安を抱えている人が多い） 運動機能のリスク者割合が高め 認知機能のリスク者割合が高め 閉じこもりのリスク者割合が高め 口腔機能のリスク者割合が低い 地域相談センターの周知度が低い
三和圏域	真壁、宇江城、真栄平、新垣、伊敷、名城、小波蔵、糸洲、南波平、喜屋武、束里、福地、山城、伊原、米須、大度、摩文仁	後期高齢者が多い 物忘れのリスク者割合が高い 願寿館の周知度が低い 運動機能のリスク者割合が低い うつのリスク者割合が低い